

# 詩集を作ろう！（応用編）

1)ワードを立ち上げ、レイアウトで余白を  
狭い。印刷の向きは横、文字列は縦  
段組は詳細設定を選び、2段、間隔を5字

2) ページ設定、文字数と行数で、縦書き  
標準の文字数を使う

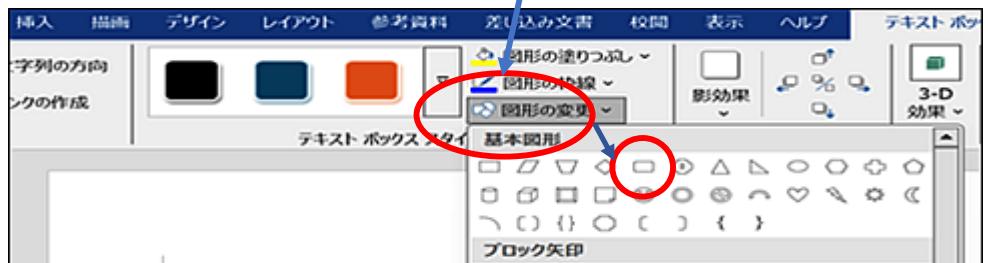


3)インターネットで「金子みすゞ短歌集」を検索 好きな部分をコピーして貼り付ける  
「金子みすゞの詩 読むだけで優しくなれる」をコピーして貼り付ける  
教材フォルダーより「No.268より、金子みすゞ・概略」データをコピーして利用してもよい。

#### 4) 各種枠を挿入する



- 5)図形の枠線で太さ形など変更
- 6)選んだ枠に文字を入れる
- 7)挿入→画像で写真などを挿入する(またはコピペする)



完成版 ➔ 次頁

# 金子・みすず

(1903- 1930)

## 特選詩集

こだまでしょうか

「遊ぼう」つていうと  
「遊ぼう」つていう。

「馬鹿」つていうと  
「馬鹿」つていう。

「もう遊ばない」つていうと  
「遊ばない」つていう。

大正末期から昭和初期の童謡詩人。  
西条八十から「若き童謡詩人の中の巨星」と賞賛されたが早逝のためその作品は散逸し、幻の童謡詩人と語り継がれるばかりだった。

1903年(明治36年)4月11日

山口県生まれ

1926年(23歳)で結婚するが、夫の浮氣や家庭内のトラブルに苦しむ。

夫から詩作を禁じられ、離婚を迫られるが娘を守るために離婚はせず。

1930年(26歳)精神的に追い詰められ、娘の将来を案じながら服毒自殺。

### 私と小鳥と鈴と

私が両手をひろげても、  
お空はちつとも飛べないが  
飛べる小鳥は私のように、  
地面を速くは走れない。



### 雪

誰も知らない野の果で  
青い小鳥が死にました  
さむいさむいくれ方に  
そのなきがらを埋めよと  
お空は雪を撒きました

ふかくふかく音もなく  
人は知らねど人里の



私がからだをゆすつても、  
きれいな音は出ないけど、  
あの鳴る鈴は私のように  
たくさんな唄は知らないよ。  
鈴と、小鳥と、それから私、  
みんなちがって、みんないい。

ひろくひろくあけようと  
小さいきれいなたましいの  
神さまのお国へゆくみちを